



みんなが楽しめる 公園づくり

子どもから高齢の方まで、誰もが気軽に集い、
楽しむことができる場をつくる

“公園と呼ぶにふさわしい場所がない。
子供たちが、安心、安全に遊べないのは、
子供軽視。また、ハード面の不自由さは、
行政責任と思わざるを得ない。
産業を後押しする前に、教育に力を入れ
ずして町の発展はないと思う”

-平成31年2月「まちづくり町民アンケート」より

“公園といっても、くつろげるようなベンチもなく、
子供達を見ているときも立っていなければならない”

“子供達と遊べる公園の設備が良くない。
忠類や更別まで行くことがよくある。
遊べる場所がないため、子育てには向いて
いない町だと思う”

-平成31年2月「まちづくり町民アンケート」より

“公園は、小さい子だけでなく、中・高生、大人、
お年寄りも楽しめるものを”

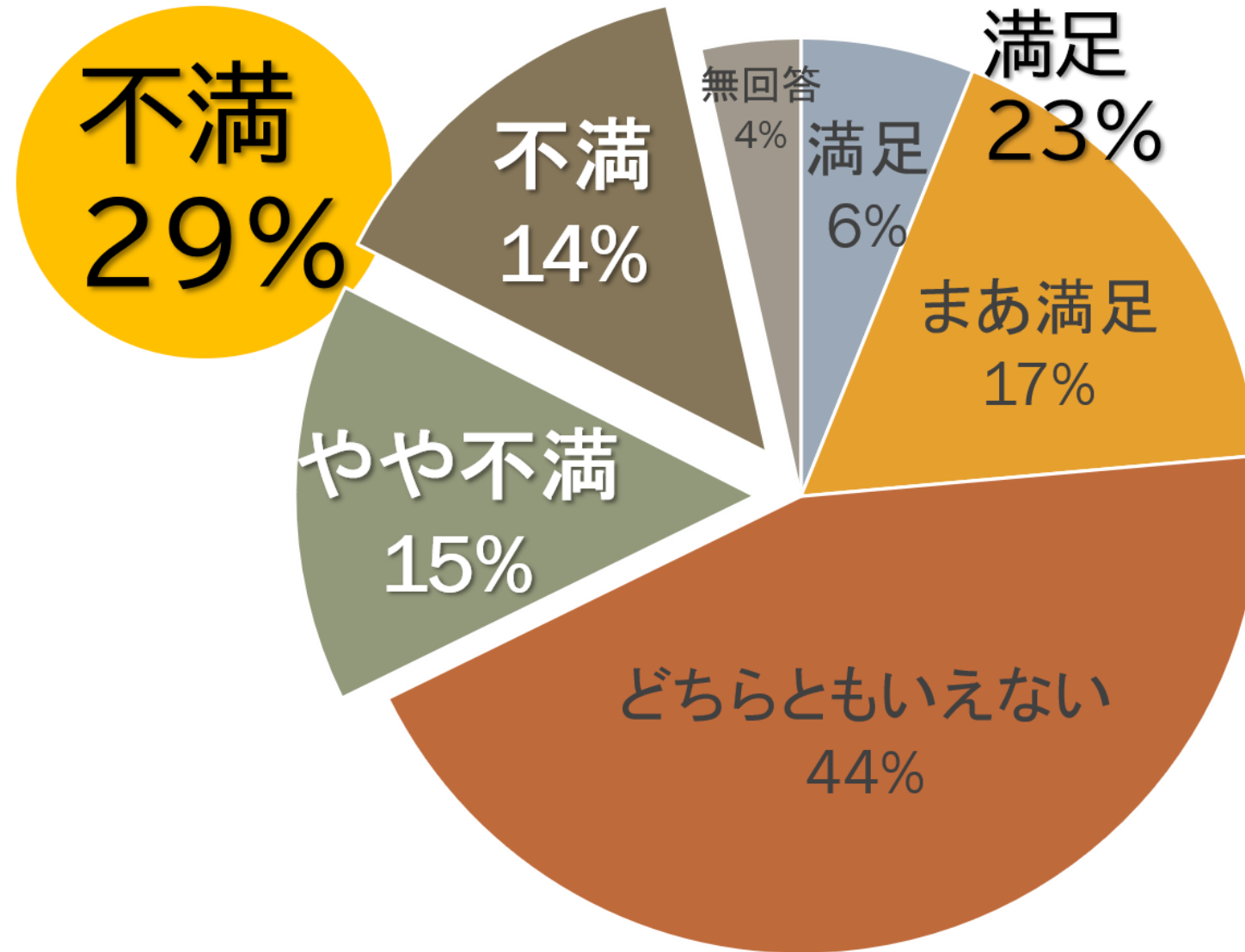
“子供達が楽しむ場所、夏は公園等が狭いし
遊具も少ないので他の町まで車で出かけてし
まう”

-平成31年2月「まちづくり町民アンケート」より

“草だらけで整備されていない公園、使いづらいなら中途半端に整備しても管理費用がかかるだけ。見渡せて平坦な広場がない。
普段、森林公園で遊ぶ子どもがどれだけいるだろうか。遊具が大切ではないと思う。
ボールを使える等のスペース（グリーンパークでは場所が悪い）”

-平成31年2月「まちづくり町民アンケート」より

公園緑地や子どもの遊び場の満足度



とにかく、
公園が
ほしい!!!

広尾町の
もうひとつの
課題

災害対策

2011年
3月11日

津波

東日本大震災

ブラック
アウト

2018年
9月6日

北海道胆振東部地震



避難所の居住性向上

さらに、
新型コロナウイルス感染症



避難所の感染対策

検温、消毒、発熱者との導線分離、
ソーシャルディスタンスやプライバシー
の確保など





資機材の備蓄量が増大
保管場所(旧広尾小、旧広尾保育所)が手狭に

課題を整理すると

公園

子供達がのびのびと遊ぶことができる
遊具等が充実した公園が多くの町民
から求められている。



災害対策

防災資機材を集中管理できる十分
な保管スペースが必要である。



防災公園を整備する (主体:町、町民)

防災機能を有し、子どもから高齢者までが気軽に集うことができる防災公園を整備する。公園の設計(デザイン)には町民参加を募り、アスレチック遊具や噴水、ベンチ、花壇、東屋、防災倉庫などの設置を検討するなど、町民参加による公園づくりを進める。

公園整備の想定スケジュール

令和4年度 「基本構想」「基本設計」作成

令和5年度 「実施設計」作成

令和6年度～ 整備工事着工

今回のWSで意識するポイント

- ① 子どもから高齢者まで多世代が気軽に集い、楽しみ、くつろぐことができる公園（機能面、立地面）
- ② 子どもがのびのびと楽しめる公園（大型遊具、ボール遊びなど）
- ③ 防災機能を取り入れた公園（防災保管庫、災害時の一時集合場所、マンホールトイレの設置など）
- ④ 将来建設予定の「観光交流施設」の併設が可能か検討する。

II

広尾町の特産品やサンタランドの魅力などをつめこんだ拠点。飲食、情報、物が集約され、町外客だけでなく、子どもから高齢者まで多くの町民が集い楽しむ場所。将来的に「道の駅」の機能を備えることも視野に入れる。

ぜひ、みなさんのご意見、
アイデアをお聞かせください。